

御坊東ロータリークラブ
Club Weekly Britain

例会 水曜日18時30分 御坊御坊商工会館3F
事務局 〒644-0002 和歌山県御坊市苗350-28(御坊商工会館3F)
連絡先 TEL 0738-23-2334 FAX 0738-22-1234
URL <http://gobo-rc.jp/east/>

会長 稲垣 崇
副会長 小池 佳史
幹事 森本 弘之

ROTARY CONNECTS THE WORLD

四つのテスト(Four way Test)
(1)真実かどうか (2)みんなに公平か
(3)好意と友情を深めるか
(4)みんなのためになるかどうか

徳本上人生誕の地 Priest Tokuhon Birth Place 1.3Km

☆ 司会進行 SAA -栗林久一 君
<ゲスト>

米山奨学生 ローリップギー君



会長告知

会長 稲垣 崇 君

みなさんこんばんは。

3週間ぶりの例会で2週間も例会がないと、それに慣れてしまっ
て例会に出て来るのが少し億劫に感じられました。

毎週、例会に出席するのも大変だと思っていたのですが2週、3週と連続で例会がなければ、次の例会に出席するのが億劫になってしまい、私はどちらにしても例会に出席することが嫌なのかなと、ふと思ってしまいました。みなさんはいかがですか？

さて、今月は米山月間ということで、今日は米山奨学生のローリップギーさんに来ていただいています。ローリップギーさん、遠いところまで来ていただきましてありがとうございます。後ほど、卓話をよろしくお願ひします。

先日の地区大会に出席されたみなさん、お疲れ様でした。



私は、土曜日の昼から出席し、一日目は講演を2つ聞き、その一つが非常に興味を引くものでした。それは、神戸大学 教授 木村建次郎氏によるもので、木村教授は大学院生時代から、波動の散乱から物体内部をみる方法論に興味を持ち、応用数学の未解決問題「散乱の逆問題」に挑戦してきてそうです。電波、音波などの波動が障害物にぶつかると、水面の波紋が乱れるように波は散乱する。障害物の位置、形状がわかっているならば、どのように散乱するかは、物理学の基礎方程式を解くことで計算可能(順問題)。しかし、波動の散乱の観測結果から、未知の物体の形状を計算・画像化することは極めて難しいそうです。木村教授は10年がかりでこの未解決問題の解法を考え続け、世界で初めて数学的な計算方法を発明したそうです。たとえば、水の上にある物体をおいて、それにあたってできた波動を観測することによって、そのある物体が分かるということらしいです。木村教授の講演は、メリハリがあつてとても退屈のしない講演でした。

そのあと、選挙人会議があり、晩餐会へと移り、午後8時頃まで約7時間、ロータリーを楽しませていただきました。



幹事報告

副幹事 北垣 剛君

○例会変更

*有田 RC 11月7日(木)、休会

◇IMに参加される方に連絡します

11月10日(日) 開始13時 受付開始12時30分からです。お忘れ無いうよう よろしくお願ひします。

◇本日例会終了後 理事会です理事の方々よろしくお願ひします。

ニコニコ箱

SAA 栗林久一 君

◇稲垣 崇 君 地区大会に出席された皆様お疲れ様様でした。

◇細川幸三 君 先日の地区大会お疲れ様様でした。ローリップギー君 本日は、ようこそお越し下さいました。

◇小池佳史 君 米山奨学生ローリップギー君 本日よりお願ひします。

◇尾崎達哉 君 地区大会参加できませんでした。小池君有り難うございました。

出席報告

出席委員会 松本政彦 君

会員数	欠席者	出席者	出席率
14名	4名	10名	71.4%
10月2日	の修正出席率		78.57% ⇒ 92.86%

本日のプログラム

「私の故郷と米山奨学生」 米山奨学生 ローリップギー さん

私は和歌山大学システム工学部四年生のローリップギーと申します。現在は岩出ロータリークラブにお世話になっています。

私の母国マレーシアは東南アジアにある国です。首都のクアラルンプールはとても賑やかな都市で、世界一番高いツインタワーのペトラナス・ツイン・タワーはこのランドマークです。また、マレーシアにはビーチリゾートが沢山あります。その中の一つがこのランカウイ島です。この島は世界ジオパークとして認定されて、大自然が好きな方に向いています。それ以外、世界文化遺産と世界自然遺産などもあるため、歴史と自然を同時に楽しむことができます。

マレーシアの特徴の一つは多民族社会で、マレー、中国とインドの3つのアジア文化が共存しています。三大民族は団結を用いてイギリスから国の独立を実現しました。同時に、各民族はそれぞれの言語、宗教と文化を代々引き継いで守ってきました。62年が経過した今でも、私達はお互いを尊重して、平和な暮らしを大切にしています。

そのような国で私は17年を過ごしました。中等教育を卒業する私が「日本への留学」を考え始めたきっかけは友達からの誘いでしたが、留学を決めた理由は「ルックイースト」政策でした。その政策は1981年にマレーシアのマハティール首相が提唱して、「日本人の集団主義と勤労倫理を学べ」という考えを中心に、マレーシア人の日本に対する関心を高めました。日本を尊敬しているマレーシアの社会で生まれ育った私は、日本の技術を学びたいと思って、留学を決めるまで時間がかかりませんでした。

日本に来てから4年半が過ぎて、米山奨学生としての生活も今年が2年目です。私は奨学生として様々な行事に参加して、沢山の学びの機会を得ました。私達は毎月世話クラブの例会に出席して、各ロータリークラブの例会で卓話をしています。それ以外に私達はどのような活動しているか疑問に思ったことはありませんか？例えば、皆様がお出席の地区大会に私達も参加しています。一年間を通してほぼ毎月約1回の活動があって、その中で私達は国際理解を深めています。

私達の活動の共通点は「交流」です。交流する対象が変われば交流相手と織りなす理解もまた変わります。例えば、奨学生同士の交流の中で、私達はお互いの国のことを学んで、名前しか分からなかった国のことを少しずつ知るようになります。例えば、交流対象が日本の青少年の場合、私達は留学生の視野では理解できなかった日本のことに気づかされます。同時に、彼らに興味を持ってもらえるように私達の国のことを伝えます。例えば、ロータリアンとの交流の際、私達は「親睦と奉仕」について勉強して、ロータリー精神を習います。交流を通じて、私達はお互いを理解して、受け入れます。

ロータリーファミリーの中には学友会という組織があります。これは元米山奨学生の同窓会で、卒業した私達は学友として活動を続けています。「国際理解と親善」は米山奨学生の責任ですが、奨学生としてできることは限られています。卒業後、仕事を

始めた私達にできることは増えて、変わります。私は残された半年間も卒業後も、今まで出会ったこれから出会う人々との交流を大切にして、できることを頑張りたいと思います。



【私の家族】



【Malaysia の民族衣装】



観光地にもなっている町並み